

平成 27 年度第 3 回環境審議会議事録（議事要旨）

1 **開催日時** 平成 28 年 1 月 28 日（木） 午前 10 時～午後 11 時 45 分

2 **開催場所** 浦安市消防本部 大会議室

3 出席者

（委員）

柳憲一郎、奥真美、石川正純、小川勝徳、島貫美代子、高橋寿美子、安田友美、大杉麻美、宮川正孝、上原好史、大塚靖、東郷進一、時岡宏行、六井元一

（事務局）

都市環境部長 大塚伸二郎、都市環境部次長 仲谷幸一

環境保全課長 宇田川道高

環境保全課長補佐（兼環境推進係長兼羽田空港騒音問題対策室長）金子義則

環境保全課副主幹（兼環境計画係長）平林俊明

環境計画係 藤原紀征、大内章広、佐藤有希子

4 議題

(1) 開会

(2) 都市環境部長挨拶

(3) 議事

- ・環境基本計画年次報告書素案について

(4) 報告事項

- ・三番瀬環境学習施設整備検討状況について
- ・羽田空港の機能強化について
- ・その他

5 議事要旨

(1) 環境基本計画年次報告書素案について

〈説明（事務局）〉

- ・浦安市第 2 次環境基本計画に掲げた施策の取り組み状況や本市環境の現状をまとめた「浦安市環境基本計画年次報告書」素案について、事務局より説明を行う。

〈質疑〉

（事務局）

- ・環境指標の順序について、国の環境基準においては、pH→BOD→SS→D0→大腸菌群数の順序が一般的であるとの意見があった。第 2 次環境基本計画では、水質汚濁の代表的な指標として BOD を先に掲げていたが、一般的な順序とすべきか。

(会 長)

- ・環境指標の順序を変えることは、さほど問題ではないと思うが一つの論点である。わかりやすく、一般的な表現である pH から始まる順序にするのがよい。
- ・「大気環境改善」についてのページで、猫実一般大気環境測定局と美浜自動車排出ガス測定局の略称は、「猫実一般局」「美浜自排局」と略記するのが一般的である。

(事務局)

- ・ご指摘のとおり、訂正する。

(副会長)

- ・水質汚濁に係る環境指標について、表の中では健康項目 27 項目が一括りになって評価されているが、27 項目の詳細について説明が必要。

(会 長)

- ・資料編に用語の解説や基準が表記されているとわかりやすい。こういった報告書は環境学習の一環として活用してほしい。

(事務局)

- ・ご指摘のとおり、資料編の用語解説に健康項目について付記する。

(委 員)

- ・「施策の総合評価総括表」の成果指標の結果だけ見ると、100 点に達している項目がなく、環境保全を達していないように感じる。成果指標の根拠を教えてください。

(事務局)

- ・成果指標は、各施策で目標を掲げている環境指標と参考指標の現状の達成度を示したものである。第 2 次環境基本計画の目標年次を平成 32 年度としているため、平成 26 年度時点における達成度では、目標達成に至っている項目はない。

(委 員)

- ・最終目標値に対する平成 26 年度の達成状況を示す指標などの説明を付記し、文章でもわかるように表記してほしい。

(会 長)

- ・施策の総合評価が各基本方針のまとめより前に掲載されているとわかりにくい場合がある。基本方針ごとの個々の評価があって、最後に総括表が出てくると、わかりやすいのではないか。見せ方に工夫が必要である。

(事務局)

- ・本書の構成では、第 2 次環境基本計画の施策体系とともに、平成 26 年度における進捗状況を総括的に評価している。再度、全体構成を見て、わかりやすい構成としたい。

(委 員)

- ・成果指標で低炭素まちづくりの推進の点数が低いですが、市民は自動車利用を少なくし自転車を利用しており、環境にやさしい行動をしているので、もっと点数が高くていいのではないか。震災の影響で道路状況が悪いから 40 点なのか。

(事務局)

・自動車利用の抑制や徒歩・自転車の推進などは市民や事業者の「省エネ行動の普及」に位置付けられる施策であり評価している。「低炭素まちづくり」施策ではエネルギーの効率利用や地産地消の推進、環境に配慮した交通利用の促進といったまちづくり施策と融合・連携した取り組みを掲げているが、まだ認識が浅く、施策・事業としても取り組みが進んでいないのが現状である。このような背景から、目標までの達成余地も含めて、40点という評価としている。

・市民や事業者に実施していただいている「浦安エコファミリー」や「浦安エコカンパニー」などの普及事業は一つ一つ行っていかなければならない。平成 32 年度の目標に向け取り組んでいきたい。

(会 長)

・低炭素のまちづくりについては取り組みが少なく、記載があまりないのに 40 点だと低く感じる。低炭素まちづくりが進んでいないのであれば、理由をきちんと記述した方がよい。

(委 員)

・震災による液状化被害からの復旧事業はどの分野に入るのか。

(事務局)

・「浦安市内の被害状況」の中で震災からの復旧・復興について記載している。第 2 次環境基本計画では震災の経験を踏まえた計画としているため、各施策の前提となっている。

(委 員)

・「施策の総合評価総括表」で総合的にまとめているが、全体的なコメント、論理的な説明をするとわかりやすいのかもしれない。

(副会長)

・成果指標（KPI）とは重要施策の成果を図るものであり、定量的に評価できるものがわかりやすいものである。現状、定性的な評価も含め、トータルパフォーマンスの指標となっている。それゆえ、市民などにわかりづらい評価となっているのではないか。

(事務局)

・基本的には定量的に評価している。「施策の方向」単位で、達成状況を示す指標として、「環境指標」「参考指標」の目標に対し、平成 26 年度時点での達成状況を示したものである。「施策の方向」と「指標」が合致していないものなどについては、「施策の方向」に対し、定性的な評価も含めて数値化している。

(副会長)

・必ずしも 13 施策について評価する必要はなく、定量的に評価できる部分については可視化し、現状と評価の整合がついたほうがわかりやすい指標となるのではないか。定性的な評価を加えると、感覚的になってしまう。

(会 長)

・数値はわかりやすいが、通常的生活状態は一般的に定量化できないので、きちんと記載しないとわかりにくい。点数が低い理由を書かないとわかりづらい。成果指標に入れるものは定量的なものだけで、定性的なものは評価から外した方がよい。

(事務局)

・定量的に評価する根拠がない、あいまいなものについては、評価は行わず、定量的に評価できるもののみで、成果指標を再検討する。

(会 長)

・審議会の意見をできる限り反映させて、年次報告書の最終校正をお願いする。

(2) 三番瀬環境学習施設整備検討状況について

〈説明（事務局）〉

・三番瀬環境学習施設整備検討状況について、三番瀬の干潟の現状や事務局の検討状況に関する報告を行う。

〈質疑〉

(会 長)

・市民協働の観点で、施設の運営について環境保護団体と意見交換しながら施設整備を進めている。平成 28 年度以降に着手することなので、まだ計画の全体が見えないが、施設ができてから運営方法を考えるでは遅いので、何かアイデアがあるとよい。

(委 員)

・ボランティアで青少年相談員として、市内の子どもたちを集め、たけのこ掘りやドッジボール大会などいろいろな事業をやっている。子どもたちにも浦安の環境を知ってほしいので、手続きなどの面で利用しやすいものにしてほしい。

・子どもから大人まで一般の方が幅広く使えるのか。学習会の際にうららめーるで利用しているが、利用時期が他の団体と重なることがある。民間委託や NPO 委託にすると、この時期は優先順位があるなど考慮してもらえるのか、検討していただきたい。

(事務局)

・現在、環境団体と協議している。先進地にも視察へ行き、いろいろと取り入れていきたい。その中で利用しやすい施設、幅広く利用できる施設という視点を盛り込んでいきたいと考える。NPO 団体が管理運営する場合でも、他団体の方々にも利用してもらい、1 年を通してその施設を活用してもらいたいという思いで、協議の場を持っている。

(会 長)

・指定管理で民間委託してしまうと先着順になり、特別な枠を設けることはできない。政策的な判断を一切抜きにし、事務的になってしまう。いろいろな団体が

入った協議会をつくり、議論してもらい、運営に反映させるとよい。

(3) 羽田空港の機能強化について

〈説明（事務局）〉

・2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け検討されている、羽田空港の機能強化について、事務局より報告を行う。

(4) その他

〈説明（事務局）〉

・「浦安市民の森」設置10周年記念事業、高崎市との協定締結について、事務局より説明を行う。

6 傍聴者

なし

以 上